

入学式式辞

本日ここに大阪観光大学にご入学された皆さん、そしてご家族・関係者の皆さん、おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

大阪観光大学は、大学名に観光という言葉を含む日本で唯一の4年制大学です。このことは、これから皆さんが何よりも観光について学ぶ、観光学を学ぶということを示しています。

皆さんがこのキャンパスライフを終えて社会人になる時、皆さんの生活は一般に、会社で働くことと、家族を含めて個人で生活することの、という二つの部分から成り立っています。時間とすれば、前者は労働時間であり、後者は自由時間すなわち余暇です。

皆さんが本学の学生としてこれから本格的に学ぶ観光は、サービス経済としての特徴を持つ現代社会の代表的な産業部門です。関連産業も含めると観光は世界最大のサービス産業として、人々に観光サービスを提供しています。一方、観光はこれを個人として楽しむ活動の面から見ると、皆さんもそれぞれこれまで体験してきたように、個人生活における自由な余暇活動の王様です。

つまり、観光はこのような意味で、いまや現代における労働生活・市民生活の両面においても中心的な領域を占めています。したがって、皆さんが学ぶ観光学とは、いまやこのように重要で普遍的な分野を対象とする科学であるといえます。

大阪観光大学の憲章(charter)では、大学の基本理念・目標を「自由を共に楽しみ、社会を共に生きぬく」としています。

ここで「自由」(freedom)とは、さしあたり自分の意思に基づいて行動することを意味します。別な言い方をすると、主体的あるいは自発的に生活できている状態です。それは、やりたいことがまずあり、それをどのように行うかがこれに続きます。

次にくる言葉は「共に」(together)です。自由にやることを誰かと一緒にやることがこの意味です。さらに言えば、これには誰かのためにやるということも含まれます。こうして、人と人とが何かを通してつながると、そこに共感(sympathy)が生まれます。この共感こそは、人間が人間であることのもっとも重要な心理状態に他なりません。自分の居場所を感じ取れるアイデンティティと言っても良いでしょう。

こういう感覚(feeling, sense)を持つことが出来たときにわきあがる感情(emotion)、それは楽しい、嬉しい等々の happy な感情です。自由を共に体験している時、私たちはこうした楽しいという思いを強く感じる事ができます。誰もが、そうした思いを得ようとして、毎日を過ごしているといっても過言ではないでしょう。

ということは、こうした感情を得るためには、「自由を共に」実現する活動・学びが不可欠であるということになります。本学では、これを「楽しむ力」(the art of enjoying)と表現しています。食べることを深く広く楽しむた

めには、味覚（sense of taste）を高度化することが必要です。様々な物事を、その総体として人生を楽しむためには、これを楽しむための知識や感性（術/art）が必要です。

一言で言えば、こうした力を育てる・育むことこそが、本学のもっとも基本的な教育理念です。

しかし、「自由を共に楽しむ」と言っても、現実の競争社会でそれを実現することは簡単なことではありませんし、時には様々な苦しさ打ち勝ていかねばなりません。その大変さは「楽しむ」というよりは「生きぬく」という表現がしばしばあてはまります。「社会を共に生きぬく」というさきほどの憲章の後半部分は、このことを表現しています。

格段に国際色豊かなキャンパスライフを体験できる大阪観光大学での学びにおいて、多様な価値観を理解するコミュニケーション力を身につけ、様々な状況に対応できる共感力を育てていきましょう。そのことを通じて、「楽しむ力」をしっかりと身につけていきましょう。

最後に、グローバルは観光に伴う世界の人々同士の交流の発展は、いま世界中で頻発している戦争を抑止する力となります。かつて国連（UN）は、「観光は平和へのパスポート」と決議しました。“Tourism for Peace！”観光の学びを通じて平和な世界の実現に共に貢献していきましょう！

2026年4月1日

大阪観光大学 学長 山田良治